

Milagros de Nuestra Señora by Gonzalo de Berceo

translated by Tsuyomasa Ota

Abstract

Gonzalo de Berceo was a Castilian poet born in the last years of the twelfth century in the Riojan village of Berceo, close to the major Benedictine monastery of San Millán de la Cogolla. He is celebrated for his poems on religious subjects, written in a style of verse which has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' work). Gonzalo is recorded as being a deacon in his home parish in the early 1220s, and as a priest from 1237 on.

Milagros de Nuestra Señora (Miracles of our Lady), Berceo's most studied work is a collection of twenty-five miracles of the Virgin Mary. The form of these miracle tales written in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way) is simple as is Berceo's style in general.

The present translation is made from the Introduction to Tale 5.

聖母の奇跡 I

ゴンサロ・デ・ベルセオ作
太田 強 正 訳

ゴンサロ・デ・ベルセオ（Gonzalo de Berceo）はスペイン北部のラ・リオハ（La Rioja）地方のベルセオ（Berceo）村で1200年の数年前に生まれたようである。何年に死亡したかは不明で、スペインで現在名前の分る最古の詩人である。近くにあったサン・ミリャン（San Millán）修道院で教育を受け在俗司祭¹⁾となり、修道院長の秘書を務めた。

この作品はメステル・デ・クレレシーア（mester de clerecía）と呼ばれるジャンルに属するものであるが、これは中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派を意味し、文字の読み書きのできない吟遊詩人（juglares）によるメステル・デ・フグラリーア（mester de juglaría）と対をなすものである。

ベルセオは前者の先駆けで、この「聖母の奇跡」はその代表作である。これはクアデルナ・ビーア（cuaderna vía）と呼ばれる1行14音節同音韻4行詩で書かれた宗教詩で25の奇跡物語が記されている。ベースになっているのは1910年にコペンハーゲン図書館で発見されたラテン語の写本（MS Thott 128）であるとされている。

今回は序と第5話までを掲載する。訳は言葉が違うので韻を踏ませる

ことはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

本稿は Edición de Juan Carlos Bayo e Ian Michael に基づいているが、訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英語、イタリア語訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳²⁾も参考にした。

序

- 1 全能の神の友であり臣下である皆さん
もしあなたが私の話を喜んで聞いてくれるなら
すばらしい出来事をお話しましょう
最後には本当にすばらしいと思うことでしょう
- 2 私はゴンサロ・デ・ベルセオ師と呼ばれており
巡礼の途中でとある^{まきば}牧場に来ました
緑で踏み荒らされておらず花が咲き乱れていて
疲れたすべての人に魅力的な場所です
- 3 良い匂いの花々が強い芳香を発していて
人の顔も心も爽快にしてくれました
隅々から澄んだ泉が流れ出て
夏は非常に冷たく冬は暖かでした
- 4 良い木々が群生していました
ザクロ、イチジク、ナシ、リンゴ
それから色々な種類の他の多くの果物、

しかし腐ったものや熟していないものはありませんでした

5 ^{まきば}牧場の緑、花の香り

優しい趣の木々の蔭

それらがすべてが私を爽快にしてくれ汗を消してくれました

人はあの香りだけで生きられるでしょう

6 私はこの世でこのような快適な所を見たことはありませんでした

このように趣のある木陰もこのようにすばらしい香りも

私はさらにくつろいで横たわるために上着を脱いで

美しい木の木陰に身を横たえました

7 木陰に身を横たえ私はすべての心配事を忘れて

小鳥たちの優しい抑揚のある歌声を聞きました

人はこのようなすばらしい楽器の音を聞いたことがありません

またこれ以上調和のとれた音を作り出せません

8 ある小鳥たちが和音を奏でれば他がそれを1オクターブ上げて奏でました

また他の小鳥たちは基音を奏で、他のに間違えさせませんでした

(同度に) 止まる時も移る時もすべてが一緒でした

鈍い小鳥やかすれ声の小鳥はそこには近づきませんでした

9 オルガン奏者もピアノ奏者も

ジグ³⁾ もプサルテリウム⁴⁾ もハープ奏者の巧みさありません
 楽器も言葉も澄んだ声の吟遊詩人もいません
 その歌声もこれに比べれば価値がありません

- 10 これらすべての良さをあなたたちに語りましたが
 まだ10分の1も語っていません、これは信じてください
 いろいろな種類のすばらしい事があって
 修道院長や大修道院長でも語り尽くせないほどです
- 11 あなたたちに話している^{まきば}牧場にはもう一つ美点があります
 暑さにも寒さにもその美しさを失わず
 いつもまったくその緑を保って
 どんな嵐にも緑を失いませんでした
- 12 私が地に横たわるやいなや
 ただちにすべての困苦から解放されました
 すべての悲しみ、過去の困苦を忘れました
 ここに住む者はさぞ幸せなことでしょう
- 13 ここに来る人や鳥はみんな
 好きなだけ花を摘めるのです
 しかし^{まきば}牧場には何も欠けるものがありません
 一本摘めば三・四本生えてきます
- 14 この^{まきば}牧場は天国と同じように見えます
 そこに神が非常に大きな恵みと祝福を与えたのです

このようなものを作った者は賢明な巨匠でした
ここに住む人は決してこの光景を忘れないでしょう

- 15 木々の果実は甘くおいしく
もしアダムがこのような果実を食べたなら
あのようにひどく破滅はしなかったでしょう
エバの夫もあのような苦痛を被らなかったでしょう

- 16 皆さん、私たちの言ったことは
言葉がはっきりしないので説明しようと思います
外皮は取り除き要点に入りましょう
中のものを取り、外側のものを捨てましょう

- 17 私たち生きるものはすべて足で歩き
牢獄にあっても、床に横になっても
私たちはみな道を歩く巡礼者です
聖ペトロもそう言っており、彼によってそれをあなたたちに証
します

- 18 ここにいる間は私たちは異国⁵⁾に住んでいます
私たちは天にある恒久の住処をち望んでいるのです
私たちの巡礼はその時に終わります
その時魂を天国に送るのです

- 19 この巡礼には良い牧場^{まきば}があります
そこでは多くの疲れた巡礼者が休息を見いだします

それは御子の母である栄えある聖母マリアであり
それに類する方は他にはおられません

- 20 この^{まきば}牧場は汚れなく常に緑でした
その純潔に決して汚れはなかったからです
産後も身重の時も真実乙女でした
彼女はその完璧さにおいて無傷で墮落していませんでした
- 21 この^{まきば}牧場から湧き出る澄んだ四つの泉は
四つの福音書であり、それを意味していました
なぜなら福音史家たち、それらを書いた四人の福音史家は
それらを書いた時、彼女と話し合っていたのですから
- 22 彼らを書くや、彼女が訂正していました
彼女が褒めた箇所はたしかなことでした
流れがすべて彼女から湧き出ているようでした
彼女がいない時は全然はかどりませんでした
- 23 木々の蔭は心地よく、やさしく、健康的でした
そこで巡礼者はみな休息を見つけるのです
それは聖母マリアの唱える祈りであり
彼女は罪人のために夜も昼も祈りを捧げています
- 24 この世のあらゆる者たち、義人も罪人も
聖職者も信徒も、王も皇帝も
私たちはみなそこに馳せつけるのです、臣下も領主も

私たちはみな花を摘みにその木陰に行きます

- 25 心地よく粹な蔭を作っている木々は
聖母が起こす聖なる奇跡です
なぜならそれらは美味な砂糖より甘いからです
その砂糖は重病患者⁶⁾に与えられるものです
- 26 これらの果樹の間でさえずる鳥たちは
優しい声で敬虔な歌を歌います
これらの鳥はアウグスティヌス、グレゴリウスなどです
彼らは彼女の実際の出来事を書きました
- 27 この人たちは聖母に愛と忠誠心を抱いていて
彼女の行為を賞賛するに際しては全く熱烈でした
皆が彼女について語り各々に自分なりの流儀がありました
しかしすべてにおいて同じ信仰を持っていました
- 28 洗練された巧みさで歌うナイチンゲールよりも
すばらしいメロディーを奏でるヒバリよりも
さらに上手に預言者イザヤは歌いました
そして名誉ある仲間である他の預言者たちも
- 29 使徒たちは自然な調子で歌いました
使徒や殉教者たちもそのようにしました
乙女たちは偉大なる聖母について行き
彼女の前でにぎやかな歌を歌いました

- 30 すべての教会でこれは毎日のことです
 彼女の前で全聖職者が賛歌を歌います
 すべての者が乙女マリアを取り囲みます
 この者たちは大いなる喜びを与えるナイチンゲールです
- 31 牧場の花に話を戻しましょう
 それは牧場を美しく、あでやかに、心地よくしています
 花は聖書が与えた名前です
 それは御子の母である乙女マリアに与えれたものです
- 32 聖なる乙女は次のように呼ばれた星です
 海の星、望まれた先達
 それは窮地にある船乗りたちに仰ぎ見られます
 なぜなら彼女が見える時は、船は導かれているからです
- 33 彼女は確かに天国の女王と呼ばれています
 彼女はイエス・キリストの神殿であり明けの明星です
 家柄の良い婦人であり、敬虔な隣人、
 体と心の健康であり薬です
- 34 彼女はギデオンの羊毛⁷⁾
 その上に雨が降った、由々しき幻
 彼女は言わば少年ダビデの石投げ器⁸⁾
 それで極悪の巨人を困惑させました

- 35 彼女は言わば私たちすべてが飲む泉です
 私たちすべてが食べる食べ物を与えてくれました
 彼女は言わば私たちすべてが馳せ参じる港、
 そしてそこから入ろうとする扉です
- 36 彼女は言わばしっかり閉じられた扉です
 しかし私たちには入ることができるように開かれています
 彼女は悪意が浄化されたハトです
 怒りが起らずいつも落ち着いています
- 37 彼女がシオンと呼ばれるのは至極もっともなことです
 なぜなら彼女は私たちの見張りの塔であり守りだからです
 彼女は言わばソロモン王の王座です
 かれは大いなる正義の王、賞賛にあたいする賢人です
- 38 どんな由緒ある名前も
 彼女に何らの関わりのない名前はありません
 彼女に根源がない名前もありません
 サンチョもドミンゴもサンチャもドメンガも⁹⁾
- 39 彼女は言わばブドウの木、ブドウ、アーモンド、ザクロで
 種の時から聖寵を受けています
 彼女はオリーブ、ヒマラヤ杉、バルサム、良く茂ったヤシ
 蛇がその上にのった竿¹⁰⁾
- 40 彼女はモーゼが手に持っていた杖

それはファラオが尊重する知者たちを混乱させ
 海を開き、そして閉じました
 それが聖母を意味していないなら他の何も意味していませんで
 した

- 41 もし私たちがもう一つの杖のことを考えているなら
 それはアアロンに関する争いを終わらせた杖¹¹⁾のことですが
 それは聖書の言う通り何ものでもありません
 聖母以外の（何ものでもありません）、これは道理のあることで
 す

- 42 みなさん、私たちは無駄に言い争っています
 私たちは大きな井戸に入っているのです、底は見つかりません
 私たちが彼女について読む名前はもっと多いのです
 私たちが知っている最も大きな野に咲く花々よりも

- 43 前にそれらは果樹だと言いました
 そこで鳥たちがいろいろな歌を歌っていました
 彼女の聖なる、偉大な、高貴な奇跡を歌っていました
 それらを私たちは主な祝日に歌うのです

- 44 私は今は歌う鳥たちに触れずにおきたいのです
 木陰と水、そして前に述べた花々にも
 わたしは甘味に満ちたこれらの果樹から
 いくばくかの、皆さん、詩を作りたいのです

- 45 私はこれらの木に少しの間登ってみたいです
そして彼女のいくつかの奇跡について書いてみたいです
そうできるように聖母が私を導いてくださるよう
というのは私だけではそれを遂行できないでしょうから
- 46 私は聖母がそうしてくだされば奇跡と思うでしょう
もしこの事において私を導いて下さろうとするなら
聖寵に満ちた母、力ある女王
あなたは私をこの事において導いてくださる、あなたは
慈悲深い方だから

1. 聖イルデフォンソ¹²⁾の司祭服の奇跡

- 47 早速スペインから始めたいと思います
名だたる町、大トレドから
というのはどこから初めて良いのか分からないからです
海岸の砂より多いのですから
- 48 美しい、この王の住まう町トレドに
町は水量豊かなタホ河の河岸にあり
誠実な聖職者である大司教がいました
彼は聖母の生まれながらの友でした
- 49 彼はイルデフォンソという名で、本¹³⁾にそう書いてあります
自分の群にたっぷり牧草を与える牧者であり
思慮深く清らかな生活を送る人物でした

彼について語られる多くは事実で示されています

- 50 いつも聖母に対して愛情を抱いており
男が婦人にこれほどの愛着を抱いたことは決してありませんでした
彼女に仕えるに当たっては心血を注ぎました
そうすることに分別と配慮を注ぎました
- 51 他の多くの、すぐれた奉仕を除いても
二つの書かれた物があり、これらがとても有名です
かれは聖母に関して美しい言葉で本を書きました
それは三人の背教者に対する彼女の純潔についてです¹⁴⁾
- 52 この忠実なる聖職者はもう一つの奉仕をしました
12月の半ばに彼女のためにお祭りをしたのです¹⁵⁾
それは3月の特別な日に祝われるお祭りで、
ガブリエルがすばらしいお告げを持って来た日のものです
- 53 ガブリエルがお告げを持ってやって来て
「おめでとう、マリア」と優しく言って
彼女がメシアを生むだろうと知らせました
その日と同じ純潔のままで¹⁶⁾
- 54 やがてこの事が起こり、人の知るようになります
教会は喜びの歌を歌いません
教会はこの特別な日に権限がありません

良く考えてみれば、彼は非常に礼儀正しいことをしたのです

- 55 この忠実な友は大きな決定をしたのです
この祭りをクリスマスの近くに置いたのです
良いブドウ棚の近くに良いブドウ畑を作ったのですから
聖母と御子、これに似た組み合わせはありません
- 56 四旬節の期間は悲しみの時期です
アレルヤも歌わないし行列もしません
このような事をすべてこの思慮深い人物は考えたのです
後にこの事によって名誉ある賞を受けたのです
- 57 忠実なる聖職者である聖イルデフォンソ
彼は聖母にすばらしいお祭りを作ってあげたのです
トレドにはわずかな人しか住んでいませんでした
彼らは司教座聖堂にミサに行きませんでした
- 58 忠実なる聖職者である聖なる司教は
ミサを挙げようとしていて
見事な司教座に就きました
すると聖母が非常に名誉ある贈り物をくれました
- 59 神の母である聖母が現われ、
手には非常に明るい色の本を持っていました
それは彼が彼女の純潔について書いた本でした
それはイルデフォンソをととても喜ばせました

- 60 聖母はもう一つ聞いた事もない恩寵を彼に与えました
彼に糸を使わないで縫った司祭服を与えたのです
人の手によらない天使の品です
彼に言葉少なに語り掛けました、丁寧な言葉で
- 61 友よーと聖母は言いましたー私があなたに満足していることを
知ってほしいのです
私にあなたは求めていた名誉を、しかも倍にして与えてくれました
した
あなたは私について良い本を書いて、私を褒めてくれました
あなたは私に今までなかった祝日を設けてくれました
- 62 この祝日のあなたの新しいミサに
私は非常に貴重な贈り物をしましょう
歌う時に着る真に貴重な祭服
今日この聖なる降誕祭の日に
- 63 あなたが掛けている司教座に就くとき
これはあなたの体にだけ許される
この祭服をつける時にあなたにだけ認められる
他の者がつけても似合わないでしょう
- 64 これらのことを言うと聖母は
彼の目前から消え、彼は何も見えなくなりました
このようにして貴重な人物は役目を終えました

その人物はキリストの母であり、僕^{しもべ}であり、妻¹⁷⁾なのです

- 65 お話ししたこの貴重な祭日は
すぐに公会議で確定され
今では多くの教会でとり行われ祝われています
この世が続く限り忘れられることはないでしょう
- 66 天なる主であるキリストが望まれたとき
貴重な聴罪司祭である聖イルデフォンソは死を向かえました
創造主の母である聖母が彼を褒め讃え
肉体に、魂にはさらなる大きな栄誉を与えました
- 67 人々が思い上がった参事会員を大司教に祭り上げました
その参事会員は傲慢で軽薄な人でした
彼（前任者）と同等になることを望んだのです、劣悪な事です
トレドの人々は良く思いませんでした
- 68 参事会員は前任者の司教座に座り
創造主が前任者に与えた祭服を要求しました
この愚かな罪人は狂った言葉を吐きました
これらの言葉は我らの主である神の母に苦痛を与えました
- 69 彼は非常に軽薄な言葉を吐きました
「イルデフォンソがもっと権威があったわけではない
私も本当は彼と同じくらい聖別されている
私たちはみな人間性は同じなんだ」

- 70 もしシアグリオ¹⁸⁾がそこまで言わなかったなら
もしもう少し言葉を慎んでいたら
創造主の怒りに触れていなかったでしょう
そのために私たちは彼は、恐ろしい罪で、破滅したのだと思います
- 71 彼は下僕に例の祭服を持ってくるように命じました
ミサを始め告解をするために
しかし彼にはそれは許されず、そうする力もありませんでした
なぜなら神の望まない事は決してそうならないのですから
- 72 その聖なる衣装はゆったりしていましたが
シアグラにはとても窮屈でした
彼のノドを固い鎖のように締め上げたのです
彼はすぐに己のひどい愚行のために窒息しました
- 73 栄えある聖母、海の星
彼女は自分の友らに十分な褒美を取らせる事を知っているのです
善人に十分に報いることを良く知っています
彼女に仕えない者を罰する事を知っています
- 74 友よ、我々はそのような聖母にお仕えすべきです
もし彼女に仕えるなら、我々は利益を得ることになるでしょう
肉体を讃えれば、我々は魂を救うことになるでしょう

少しでもお仕えすれば、我々は大きな報いを得るでしょう

2. 不倫の香部屋係¹⁹⁾

75 友よ、少し待ってもらえるなら

もう一つの奇跡を君たちに話してあげましょう

これは聖マリアを通して神が示してくださったもので

神はその乳を口で吸おうとなさったのです

76 ある修道院に1人の聖なる修道士がおりました

場所は読んでありませんし、言うこともできません

彼は心から聖マリアを愛していて

毎日彼女の像に頭を垂れていました

77 毎日彼女の像に頭を垂れて

ひざまずいて、「アベ・マリア」と唱えていました

修道院長が彼を香部屋係に任じました

というのは彼をまともで、狂ったところがないと思ったか思ったからです

78 悪魔の代理である悪しき敵が

善人である競争者にはいつもそうするのですが、

その悪賢い敵対者はうまく焚き付けて

彼を墮落させ姦通を働かせました

79 その狂った罪人は悪い習慣を身につけました

修道院長が夜休んでいると
寝室を出て教会を抜けて
その破廉恥漢は悪行に邁進しました

- 80 出て行く時であれ帰って来る時であれ
祭壇の前を通り
御辞儀をしアベ・マリアと唱えていました
一度も忘れたことはありませんでした
- 81 修道院の近くに大きな川が流れていました
彼もいつもその川を渡らなければなりませんでした
その痴れ者が愚行を犯して帰る時に
修道院の外で川に落ちて溺れ死にました
- 82 朝の祈りの聖歌を歌う時が来たとき
奏でられる香部屋係はいませんでした
すべての人がその場所から立ち上がり
修道士を起こしに教会へ行きました
- 83 できるだけ静かに教会の扉を開けました
守衛を捜しましたが見つかりません
あちこち探して歩き回りました
溺れて倒れているところで彼を見つけました
- 84 これは一体どういう事なのか考えつきませんでした
死んだのか殺されたのか判断しかねました

苦悩は非常に大きく、悲しみはさらに大きいものでした
というのはこの事で修道院の評判がとても落ちたからです

85 死体が川に浸っている間

魂はどんなはめになっていたのかお話ししましょう
悪魔のもとからその魂を求めて大群衆がやってきました
それを喜びの全くない地獄に連れて行くために

86 悪魔たちが鞠のようにそれを押し動かしていると

天使たちが見て、その魂のところに降りてきました
すると悪魔たちはすぐに大反発しました
戦利品は彼らのもので、天使たちは離れて行けと

87 天使たちにはその魂を要求する道理がありませんでした

というのは悪い最後だったので仕方がなかったのです
少しも彼らから奪うことができなかったのです
戦いから沈んで去らなければなりませんでした

88 するとすべての女王である聖母が馳せ参じました

というのは悪魔たちは諸々の悪に心を砕いているいるからです
聖母は彼らに待つように言うと、彼らはあえて他の事はしませんでした
聖母は彼らを断固とした非常に重要な戦いに駆り立てました

89 聖母は雄弁に言葉を発して

言いました「痴れ者たちよ、あなたたちはこの魂には何の関係

ありません

肉体の中にあるときは私に託されていました

今見捨てておくのは良くないと思います

90 反対の側から代弁者が言いました

物知りで、鋭く、優秀な悪魔です

「あなたは正しい裁き手である御子の母です

彼は暴力は好まないし、それを快く思いません

91 人間は定めによって見つけられた場所で

良いにつけ悪いにつけその事によって裁かれのです

もしこの掟があなたによって破られるのなら

福音書に書いてある事はすべて無意味になってしまいます」

92 聖母は言います「あなたは馬鹿なことを言っています

私はあなたを責めはしません、あなたは害獣なのだから

彼が外出したとき、私の許可を取りました

彼の犯した罪には私が罰を与えましょう

93 あなたたちに力を行使するのは体裁が良くないでしょう

しかし私はキリストにお裁きをお願いします

彼は強力で、知恵に満ちています

彼の口から判決を聞きたいです」

94 天国の王であり、物知りの裁き手

彼はこのもめ事をものの見事に解決しました

主はその魂を肉体に返すことを命じました

その後で彼はしかるべき儀礼を受けることになるでしょう

95 修道院は悲しみに沈んでいました

このような悪い事例が自分たちに起こったのですから

しかしすでに死んでしまった修道士が生き返りました

みんな驚きました、無事だったのですから

96 その修道士は話しかけて言いました「兄弟のみなさん、

私は死にましたが生きています、みなさんこれは確かなことなので

己の僕を救う聖母のおかげです

彼女は悪い戦士たちの手から私を解放してくれました」

97 彼は自らの言葉で事の顛末を彼らにすっかり話しました

悪魔たちが何と言ったか、そして聖マリアが何と言ったか

いかに彼らの力から彼を解き放ったか

もし彼女がいなかったら暗黒の中にいるでしょう

98 彼らは神に心から感謝しました

そして哀れみの母である我らの女王にも

彼女はその寛大さでこのような奇跡を起してくださったのです

彼女のお蔭で全キリスト教世界がより堅固になりました

99 その修道士は告解し償いを果たしました

すべての不品行から身を引き

でき得る限り聖母に仕えました
 そして神が望んだ時に悔恨なく死を迎えました
 神の慈悲をもって平和のうちに憩わんことを²⁰⁾

- 100 このような多くの奇跡とさらに重要な多くの奇跡を
 聖マリアは彼女の信者たちに起しました
 どんな人も千分の一も語れないでしょう
 しかし私たちの知っていることには満足してください

3. 司祭と花

- 101 私たちは頭のおかしい司祭について読んでいきます
 彼は世俗の悪徳に深く染まっていました
 頭がおかしかったのですが一つ正気なところがありました
 心から聖母を愛していたのです
- 102 他の事には悪い習慣があったのですが
 聖母に挨拶する事には非常に分別がありました
 教会に行くにしてもどんな任務に就くにしても
 その前に聖母の名を唱えない事はありませんでした
- 103 どんな折だったか言うことはできません
 というのは彼が自分からそうしたのかどうか分からないからです
 敵がこの男を襲って
 殺してしまったのです、主よ彼を許したまえ

- 104 町の人々と彼の仲間は
事がどのように起こったのか確かには知らなかったので
町の外の土手の間に
キリスト教徒の間ではなく、彼を葬りました
- 105 聖母はこの埋葬を悲しく思いました
彼女の僕が修道院の外に眠っているのですから
彼女はものの分る司祭のところに現われ
この事で人々は過ちを犯したと告げました
- 106 彼が葬られてから丸 30 日が過ぎました
そんなに長い間に遺体は傷んでいるかもしれませんでした
聖マリアは言いました、「あなたたちは理不尽な事をしました
私の書記があなたたちからあんなに離れた所に眠ってます
- 107 私はあなたに言うように命じます、私の書記は
聖なる所から追い出されるような者ではなかったと
彼らに言いなさい、もう 30 日彼をそこに放置することがないよ
うに
彼を他の者たちと一緒にちゃんとした墓に入れてあげなさい」
- 108 居眠りをしていたその司祭が彼女に尋ねました
話しているあなたは誰なのですか、あなたから命令を言ってく
ださい
私がこう言うのは、私に頼み事があるからでしょう
困っている人とは誰ですか、葬られた人とは誰ですか

- 109 聖母は彼に言いました、「私は聖マリアです
私の乳を飲んだイエス・キリストの母です
あなたたちが仲間はずれにした者は
私が秘書として使っていた者です
- 110 あなたたちが墓地から遠くに葬った者
あなたたちが何の祭儀もしてあげようとしなかった者
私が彼のためにこの事をすべてあなたに言うておきます
もしできなければあなたは不幸になりますよ
- 111 聖母の言った事はすぐに実行されました
墓が速やかに開かれたのです
人々は一つではなく二重の奇跡を見ました
それぞれがすぐに判りました
- 112 彼の口から美しい花が咲き出ているのです
とてもきれいな、鮮やかな色の花です
花はその場を良い香りで満たしました
遺体からは全然腐臭が感じられませんでした
- 113 彼の舌は生気があり健康そうで
内側はきれいなリンゴのようでした
お昼にはそれほど生気がありませんでした
その時間には彼はよく農園でおしゃべりをしていたのです

114 人々はこの事が聖母によって起ったのだと分りました
他の人がこのような事ができるはずがないからです
彼らはスペキオーサ²¹⁾を歌いながら遺体を移しました
教会の近くのもっと良い墓に

115 世界中の人が敬意を払うでしょう
乙女マリアにお仕えれすれば
その人は生きている限り喜びを見るでしょう
そして最後の日に魂を救うことになるでしょう

4. 聖母のほうび

116 別の司祭について書物が伝えています
彼は聖母の姿を愛していました
いつもその絵の前で御辞儀をして
彼女の視線をととても恥ずかしがっていました

117 彼女の御子をそして彼女を愛していました
御子を太陽、母君を星と崇めていました
御子と乙女マリアが好きでした
しかしあまりお仕えしていなかったので大変心苦しく思っていました

118 彼は五つの詩句を覚えました、喜びの詩句です
それらは乙女マリアの喜びを語ったものです
司祭は聖母の前で毎日それらを唱えていました

聖母はそれらをととても喜んでいました

- 119 「喜びなさい、マリア、あなたは天使（のお告げ）を信じたのです
す

喜びなさい、マリア、あなたは乙女のまま身ごもったのです

喜びなさい、マリア、あなたはキリストを生んだのです

あなたは古い立法を閉じ、新しい立法を開いたのです」

- 120 御子の被った傷だけ

多くの公唱を御子を生んだ母に唱えていました

このように司祭は善良で、相当の報いを受けました

彼はすばらしい褒美と喜びを受けたのです

- 121 これらの五つの喜び²²⁾によって私たちは他の事を心に留めなければいけません

私たちに罪を犯させる体の五感です

見る、聞く、嗅ぐ、味わう

そして私たちが触ると言っている手に取ってみることです

- 122 もし私たちがあなたたちに言ったこれらの五つの喜びを
聖母に喜んで捧げるなら

私たちがこれらの五感によって犯す過ちについて

彼女の聖なる取り次ぎによって私たちは大いなる許しを得るでしょう

- 123 この修道士はひどい病に冒されました

両眼が頭部から飛び出しそうになったのです
彼は自分の生涯が終わって
最後の時が迫っていると思いました

- 124 その時天の王の母が現われました
彼女は比類なき憐れみの持ち主でした
彼女は言いました、「友よ、霊なる主があなたを救ってくれます
ように
あなたはその母の忠実な友でした

- 125 頑張りなさい、恐れてはいけません、落胆しないでください
この苦痛からすぐに癒されると知rinaさい
苦悩のない神と一体になりなさい
あなたの脈は正常だと言っているのですから

- 126 私がそばにいるのだから恐れることはありません
すべての苦痛から癒されたと思いなさい
私はいつもあなたから奉仕と愛を受けました
あなたのその労苦に報いたいと思います

- 127 その司祭は床から起き上がり
自分の足で野原を歩けるだろうと思いました
しかしできることと考えることには大きな違いがあります
このことは別の結末を向かえるこのになったのです

- 128 その司祭は己の牢獄から出て

知人たちと楽しんだり笑ったりしようと思いました
 しかし彼の魂はそのような猶予を受けることはできませんでした
 た
 それは肉体を捨てて出て行かなければなりませんでした

- 129 天の女王である聖母が魂を取り上げました
 代子²³⁾ が良き代母の元へ行ったのです
 天使たちがその魂を神の恩恵をもって受け取り
 天に運びました、そこでは幸福が終わることがないのです
- 130 それは聖母が彼に約束したことを
 ちゃんとそれを果たしたのだから彼女が祝福されますように
 彼女の言ったことを彼は理解できませんでした
 しかし彼女の言ったことはすべて本当になりました
- 131 うわさを聞いて起ったことを見た人は皆
 聖母が奇跡を起こしたのだと思いました
 その司祭はとても幸せな人だと思い
 皆美しい乙女を讃えました

5. 慈悲深い貧者

- 132 施しで生きている貧しい男がいました
 他に収入や持ち物はありませんでした
 働いたわずかな機会を除いてはそうでした
 財布にはわずかな小銭があるだけでした

- 133 とても愛していた聖母（の好意）を得るために
稼いだものすべてを貧者と分け合っていました
この事に努め、懸命に頑張ってきました
彼女の恩恵を得るため己の貧しさは忘れていました
- 134 この貧者がこの世を去ることになった時
聖母が彼を招きに来ました
とても優しく話しかけ彼を褒めようとしました
その地に居たすべての人が彼女の言葉を聞きました
- 135 「あなたは私たちの絆を強く望みました
それを得るためにあなたは良い業を知っていました
施しを分け与え、『アベ・マリア』と唱えたのだから
なぜあなたがそう言うことをしたのか私はよく分っていました
- 136 あなたの行いはすべてが首尾よく終わったことを知りなさい
今この日が最後の日です
『イーテ・ミサ・エスト』²⁴⁾ がすでに唱えられたことを考えなさい
労賃を受け取る時が来たのです
- 137 私はここにあなたを連れに来ました
私の息子の王国へ、彼はあなたの良き友です
そこでは天使たちが上質小麦（から作ったパン）を食べています

聖なる力天使²⁵⁾ たちがあなたが来て喜ぶでしょう」

138 聖母が説教を終えると

魂は幸福な肉体を離れました

天使たちの栄えある集団がそれを取り上げました

そしてそれを天に運んで行きました、神が賛美されますように

139 以前に聖母の声を聞いたこのある者は

約束が果たされたのをこんなに早く見ました

このように丁重な聖母に

みんなそれぞれの方法で感謝を捧げました

140 このような話を聞いた者は不幸になるでしょう

もし聖マリアに心酔してないとすればそうなるでしょう

もし彼女をもっと崇めないなら不幸になるでしょう

彼女から離れる者はひどく欺かれるでしょう

141 私たちはもっと先を急ごうと思います

このようなお話は省略するものではありません

なぜならこれは私たちがその下で憩う木々だからです

そしてその木陰で小鳥たちが歌を歌うのです

注

1) 修道会に所属する修道司祭とは異なり教区に所属する司祭のこと

2) Milagros de Nuestra Señora, Gonzalo de Berceo, Clásicos Castalia, Madrid, 2006

Milagros de Nuestra Señora, Edición Modernizada, estudio y notas, Vicente Beltrán Pepio,

Madrid, 1985

Miracles of Our Lady, Translated by Richard Terry Mount and Annette Grant Cash, Kentucky, 1997

I Miracoli di Nostra Signora, Giuseppe Tavini, Edizioni dell' Orso, 1999

聖母の奇跡、橋本一郎、大学書林、東京、1986

- 3) giga 舞曲の一種
- 4) psalterio 中世の弦楽器
- 5) ajeno の訳、色々に解釈されている
- 6) 砂糖は当時貴重品で主に医療用に用いられていた
- 7) 旧約聖書士師記 6 : 36-40
- 8) 旧約聖書サムエル記上 17 : 49
- 9) Sancho, Domingo, Sancha, Domenga である。聖母と直接は関係ないが、Sancho, Sancha はラテン語の sanctus (聖なる) から、Domingo, Domenga は dominus (主^{しゅ}) から来ている
- 10) 旧約聖書民数記 21 : 8-9
- 11) 旧約聖書民数記 17 : 17-26
- 12) 聖イルデフォンソ 7 世紀の人物でトレドの大司教
- 13) この奇跡物語の元になっていると思われるラテン語の本ことであろう
- 14) Libellus de virginitate Sanctae Mariae contra tres infideles (三人の不信心者に対する聖マリアの純潔性に関する小冊子) 三人の背教者とは Joviniano、Helvidio と名前の不明のトレドのユダヤ人
- 15) 聖イルデフォンソの働きかけで 656 年の第 10 公会議で決まった
- 16) 所謂受胎告知である、ルカ 1 : 26-35
- 17) 有り得ない矛盾である
- 18) Siagrio 後のトレドの大司教と言われている
- 19) 聖堂の奥にあり、司祭が祭服に着替えたり、祭服、祭具を保管したりする部屋。聖具室
- 20) この一行ラテン語 Requiescat in pace cum divina clemencia (clemencia だけがスペイン語化している。ラテン語では clementia)
- 21) Speciosa 聖母を讃えて歌われる交誦 (聖堂内の左右の歌隊から交互に歌う詩編または賛美歌)。speciosa とは「美しい」の意で、カトリックでは [spetʃi'ɔ:za] と発音される
- 22) 上記 119 では聖母の生涯における五つの喜びのうち三つだけが述べられている。あとの二つはキリストの復活と自己の被聖天と思われる。

- 23) 洗礼を受けるとき、信仰上の導き手となる代父、代母に対して受洗者を代子という
- 24) Ite, missa est. ラテン語で「皆さん行きなさい。解散です」の意。司祭のこの言葉でミサが
終わるので、ミサの語源とされるが異論もある
- 25) 天使の階級で中級二位の天使、力の強さからこう呼ばれている

参考辞書・事典

Diccionario Medieval Español, Martín, Alonso, Universidad Pontificia de Salamanca, Salamanca,
1986

Diccionario de Castellano Antiguo, Guiérrez Tuñón, Manuel, Editorial Alfonsópolis, Cuenca, 2002

Diccionario de la Lengua Española, Real Academia Española, Espasa-Calpe, Madrid, 1992

西和中辞典、高垣敏博、小学館、東京、2007

伊和中辞典、小学館、東京、1983

New English-Japanese Dictionary, 竹林滋、研究社、東京、2002

羅和辞典、水谷智洋、研究社、東京、2009

キリスト教大事典、日本キリスト教協議会、教文館、東京、1985